

福井県医師会

だより

第622号 平成25年(2013)4月



福井城址の春

鯖江市 清水 元博

表紙写真説明：福井城址の春

鯖江市 清水 元博

福井城は、1606年徳川家康の次男である結城秀康により築城されました。当時は、5重の水堀が囲む本丸には4重5階の天守が建てられましたが1669年に焼失し、以後再建されることはありませんでした。

現在は、毎年開催される「福井春祭り」の期間中ライトアップされ、市民の憩いの場として親しまれています。

この写真は、去年の福井春祭りの一コマです。ライトアップされた雄大な石垣と満開の桜のたたずまいが大変印象的でした。

醫 縫 録

日本消化器内視鏡学会北陸支部長を 拝命して

市立敦賀病院長 米 島 學



平成21年4月に市立敦賀病院に赴任するまでは、消化器内科医として、金沢大学消化器内科、金沢大学がん研内科、金沢市立病院消化器科に勤務していました。消化器内科でも消化器内視鏡による診断と治療に力を注いできました。また、金沢市の胃がん内視鏡検診の立ち上げと精度管理にもかかわってきました。

市立敦賀病院に病院長として赴任してからは院長業務が主体となりました。当時は、医師引き揚げに伴う医師不足により、十分な診療体制が取れず経営も悪化し、市民と市議会から批判が続出していました。中期経営計画(5年間)をたて、職員に意識改革をお願いしました。病院のミッションを明確化し、職員各自が何をすべきかを考えてもらいました。職員の努力のお蔭で、平成22年度から経営も好転し、ほぼ3年で断らない診療体制を取ることができました。職員に大変感謝しています。

病院長就任4年目の昨年10月10日に、一般社団法人日本消化器内視鏡学会北陸支部長(6代目)を拝命しました。

本学会は、会員数約34,000名(北陸支部会員1,084名)で、内科学会、外科学会に次いで会員数が多く、消化器内科医と消化器外科医のほとんどが所属している学会です。北陸支部は昭和35年の「胃カメラ学会第1回北陸地方会」を第1回地方会としており、初代支部長は谷野富有夫金沢大学第1内科教授です。初代から第4代は金沢大学教授、第5代は富山大学教授であり、教授でない私になってよいのかという戸惑いもありました。しかし、昨年の7月に開催された北陸支部の幹事会と評議員会で、組織をまとめて欲しいとの意見に押され、引き受けました。

会員に開かれた支部、情報を共有する「見える化」を目指しています。まず、支部長に就任してすぐの昨年11月の支部例会において、それまで支部長の推薦で決定していた支部幹事・

監事を支部評議員の投票で選出しました。嬉しいことに北陸の消化器内視鏡を臨床の現場で牽引している若手、中堅の医師が幹事に加わりました。大学病院の医局との連携、関連学会(消化器病学会、消化器がん検診学会など)との連携も重要です。消化器系の教授3名に本部社団評議員に就任していただきました。医局員の学会活動がより活発に行えるよう、3名の教授に支部評議員就任をお願いし、北陸の消化器系教授が全員支部評議員となりました。内視鏡器械と技術の進歩は目覚ましく、支部の内視鏡レベルのさらなる向上に力を注ぐ必要があります。特に、若手の内視鏡医の育成は重要課題です。現在行われている支部セミナーの他にハンズオンセミナーによる技術伝達も考えています。癌の発見と治療に内視鏡は威力を発揮します。そのためには内視鏡を受けてもらうための啓蒙が必要で、市民公開講座の企画も予定しています。

福井県では、福井大学第2内科教授に中本安成先生が就任され、消化器内視鏡医の増加が期待されます。昨年、福井大学光学診療部に大腸内視鏡のスペシャリストである平松活志先生も赴任され、心強い限りです。小腸内視鏡導入施設も増えています。福井県はがん死亡率が少ない優良県であり、胃がん集団検診を積極的に行っている県です。医師会の先生方のご尽力で個別検診も本格化してきました。胃がんの個別検診が透視から内視鏡に移行している地域も多く、学会として協力させていただけないかと考えています。

医師会の先生方の消化器内視鏡学会に対するさらなるご理解とご支援をお願い致します。